

上尾市立太平中学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標
社会に貢献できる人材の育成

校訓 ～凡事徹底～

学校課題研究主題

すべての生徒に「わかった」・「できた」を味わわせ、
 伸びる喜びを実感させる指導の工夫・改善
 ～特別支援教育の視点を取り入れた学校づくり～

学力・学習状況調査の結果

R5 全国学力・学習状況調査	R5 埼玉県学力・学習状況調査	R4 上尾市立小・中学校学力調査
<p>【国語】 ことばの使い方や特徴に関する知識の定着が弱く、相手を意識した表現工夫に課題がある。</p> <p>【数学】 記述式の問題で正答率が低いことや無解答率が高いことから「筋道を立てて説明する」ことに課題があると考えられる。</p> <p>【英語】 情報を正確に読み取ること、まとまった文章を書くことに課題がある。</p>	<p>【国語】 言語に関する知識全般の習得状況に課題がある。使用語彙が限られていることも要因の一つと考えられる。</p> <p>【数学】 基本的な知識の定着を図るとともに、わからない問題をそのままにせず、理解するまで諦めずに取り組むことが必要である。</p> <p>【英語】 基本的な語彙や文法・語法についての知識や、まとまった英文の要点を理解することに課題がある。言語活動で学んだ表現を活用させたり、読解問題に取り組む必要がある。</p>	<p>【国語】 漢字の読み書きに関する問題は全学年でしっかりと取り組んでいることを続ける。文章を読み取る力が弱い。</p> <p>【数学】 証明問題などの記述式の問題では無解答率の生徒が多い。また、文章問題の正答率が低い。</p> <p>【英語】 英作文や記述問題など、書くことに関する問題、表現の能力に関する問題に課題がある。基礎的な単語力を身に付けさせる必要がある。</p>

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①読む、聞く、話す力の育成 ②計算力の育成 ③知識・技能に繋がる理解力	④課題や問題に向き合い、解決していく力の定着 ⑤自らの考えや思いを伝える力の育成	⑥粘り強く学習に取り組む姿勢や態度 ⑦自らの学習方法や態度がより良いものになるように調整する力

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
○ドリル学習の充実 漢字練習、計算練習、小テスト、まなびポケット等で自動採点ドリル学習の実施。 ○ICT 端末の活用 Chromebook などを活用し、よりわかりやすい授業を行う。	○課題設定の工夫 身近な話題や興味のある課題を設定し、思考力・判断力を高める授業を行う。 ○表現力を高める授業 論述やレポートの作成、発表、作品の制作や表現など多様な活動を取り入れる。	○興味関心を高める工夫 本時の課題や評価を明示することで授業への参加意識を高める。 ○振り返りの時間の設定 授業の終末に振り返りの時間を設定し、次の授業への意識付けを図る。

本校の特色ある取組

- 太平中レインボープランの実施
 [挨拶] [高唱] [表明] [傾聴] [称揚] [整頓] [黙読]
- T・L・I (太平ラーニングイノベーション) の実施
 協力して問題を解く活動を通して、協働する喜びを知り、協働の仕方を身に付ける
- 朝読書における読み聞かせの実施
- 学年・学級の日
 部活動を停止し、係活動や学習の補習など、放課後活動の時間を確保

家庭教育との連携

- 道徳通信 (道しるべ) の発行 (毎月1回)
- 学校だより、学年だよりの発行
- 保健だより、情報通信、進路指導通信の発行
- 三者面談の実施
- さくら連絡網で情報を確実に届ける

学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①読む、聞く、話す力の育成 ②計算力の育成 ③知識・技能に繋がる理解力	④課題や問題に向き合い、解決していく力の定着 ⑤自らの考えや思いを伝える力の育成	⑥粘り強く学習に取り組む姿勢や態度 ⑦自らの学習方法や態度がより良いものになるように調整する力



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	④、⑤	集団で課題に取り組み、解決する活動を取り入れる。	
社会	①、⑤	少人数での話し合い活動を積極的に取り入れる。共同編集機能のあるアプリを活用する。	
数学	②、④、⑥	課題を解決するために、見通しを持って取り組ませることや少人数での話し合い活動を実施する。小テストや計算プリントに取り組み、学力の定着が不十分である生徒に対する補習を行う。	
理科	③、④	AI 型教材の利用等、ドリルによる反復学習を習慣化する。仮説→結果→考察→まとめの過程から科学的な思考力をもとにしたレポートの書き方の定着を図る。	
外国語	③、⑤、⑦	English Room を開設し、自分の思いを英語で伝える場を設ける。AI 型教材を活用し、基本的な知識・技能を習得させ、振り返りを通して自己の課題や頑張り認められるようにする。	
音楽	④、⑤	考えや思いを言語化するためのヒントを提示し、少人数での意見交換の場を取り入れる。	
美術	⑤、⑥	アイデアを出す手助け資料を提供し、完成作品は全員展示する。	
技術	③	自主学習に使えるコンテンツの作成。そのコンテンツを題材ごとに使用する時間の確保。	
家庭	④、⑥	自己や家庭での課題を設定し、よりよい生活を送ることができるようレポートやパフォーマンス課題の設定をする。	

保健体育	④、⑦	仲間と協力する中で運動のポイントや課題を言語化させながら、課題解決を図る場を設定する。また、主体的に取り組む態度の項目を意識づけることで、より良い姿を目指す態度を養う。	
特別の教科 道徳	①、⑤	自分の意見を発信したり、相手の意見に傾聴する。意見が言えない生徒に対して ICT 端末で視覚的補助を行う。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

(2) 教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組

○「太平ゼミ」の実施	○定期テスト前の部活動停止期間中に、自分の課題を持ち寄り、学習する場を提供する。分からない問題がある場合は、生徒からの質問に答えて学習補充を行う。
○夏季休業中の補習	○夏季休業中、各教科担当で必要な補習を行う。
○協同・協働学習 T・L・I 「太平ラーニングイノベーション」	○少人数のグループに分かれ、話し合い活動を通して答えを探していく学習の機会を増やし、粘り強く考える姿勢や他者と協力して解決策を考える力を身に付けさせる。
○朝読書における読み聞かせの実施	○各学期に1～2回、朝読書の時間を利用して教員や図書委員、学校運営協議会員による読み聞かせを実施する。

家庭教育との連携

○道徳通信の発行	○月に一度、道徳通信を発行する。各教員より道徳に関する話題や実体験等を踏まえた内容とする。
○情報通信の発行	○ネットリテラシー、ネットモラルなど定期的に家庭への啓発をはかっている。
○学校だより、学年だよりの発行	○学校での生徒の活動の様子や、今後の予定を知らせている。
○太平ノート・テスト計画表の利用	○太平ノートを利用し、家庭学習時間を記入する。定期テスト前にはテスト計画表をつくり、毎日の学習の進捗状況を担任と家庭とで共有する。 ○特別支援教育では教育支援プランに基づいた面談を実施する。
○三者面談	○ホームページは週1回更新して、情報発信を積極的に行う。
○ホームページ	○さくら連絡網で発信することにより確実に情報が家庭に届くようにしている。
○さくら連絡網	